

令和元年度（平成31年度） 南丹市立美山小学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

学校教育目標	学校の現状分析	学校経営方針（中期経営目標）
<p>「ふるさとを愛し 夢や希望に向かって 自らを高める 美山っ子の育成」</p> <p>《目指す児童像》 み 自ら考え、豊かに表現する子 や やさしく、思いやりのある子 ま まっすぐ伸びるたくましい子</p> <p>*児童が生き生きと活動し成長することを 保護者・地域・教職員が手を携えて取り組む学校</p>	<p>○児童は落ち着いた穏やかな学校生活の中で、まじめに学習や諸活動に取り組んでいる。</p> <p>○集団の中で自分の思いを伝えようとする意識が高まりつつある。しかし、声の大きさや表現力に課題が見られる児童もあり、傾聴の姿勢とともに高めていく必要がある。</p> <p>○宿題等の与えられた課題に真面目に取り組んでいるが、自主的な学習の取組には個人差がある。家庭での学習習慣の確立やゲーム機器等の使用ルールについて、家庭啓発も含め連携した指導が必要である。</p> <p>○運動好きな児童とそうでない児童の二極化が見られ運動機会の拡充による体力向上が必要である。</p>	<p>○確かな学力・豊かな人間性・たくましく健やかな体を持つ児童の育成</p> <p>○地域とともにある学校として、地域と協働した取組による相互の活性化</p> <p>(1) 人権尊重の精神が底流にある学校で、自分自身・仲間を大切にする児童を育成する。</p> <p>(2) 主体・対話的で深い学びにつながる授業づくりを進める。学ぶ意欲の喚起と基礎学力の定着を図り、自らの思いや考えを表現する力を育成する。</p> <p>(3) 地域とともにある学校として、地域の教育資源の積極的活用と地域活性化に向けた働きかけや取組にも関わる。</p> <p>(4) チーム学校としての機能の充実と、ICT活用や校務の効率化により、教職員が児童と関係づくり等ができる、働きがいのある魅力ある学校にする。</p>

学校経営の重点（短期経営計画）	成果	評価	課題	改善策等
<p>◆人権教育・仲間づくり</p> <p>○同学年や異学年との活動・取組を通して、児童同士のつながりを深め、自己存在感・有用感を高める。</p> <p>※「仲間のために力を発揮した、役に立っている、喜んでもらった」等で肯定的に回答する児童80%以上 「自分のよいところを知っている」で肯定的に回答する児童80%以上</p>	<p>○児童会や人権旬間の取組、運動会等の異年齢での活動を通して、児童が互いを認め合うという意識を高めることができた。</p> <p>○「聴く」ことができる児童が増えてきた。</p> <p>※「仲間のために力を発揮した、役に立っている、喜んでもらった」等で肯定的に回答する児童 85% 自分のよいところで肯定的に回答する児童 70% 仲間のよいところで肯定的に回答する児童 85%</p>	B	<p>○自分たちで考え、判断し、行動できる自主性・主体性を育てる。</p> <p>○仲間と協働する活動を通して、自己肯定感・自己有用感を高める。</p> <p>○自分の考えや行動を自分自身で振り返り、規範意識や人権意識を高める。</p>	<p>○日常の関わりや授業での指導、特別活動の取組を通して、活躍できる場面を意図的に作る。</p> <p>○人権や自分自身・仲間に関することに重点を置いた年間指導計画を作成し、道徳の指導にあたる。</p>
<p>◆授業改善・確かな学力</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」を目指し、ともに学び合うことを通して、どの子も「わかる・できる」が実感できる授業改善に取り組む。（児童全員に対する「指導の工夫」と同時に、「個別の配慮や支援」を行う。）</p> <p>※学習内容が「わかる・できる」と肯定的に回答する児童80%以上</p>	<p>○校内授業研究会（事前・授業・事後）をすべての学年で行い、成果・課題を共有しながら、日々の授業に向かうことができた。</p> <p>○補充学習の時間や休み時間・放課後等の個別指導により、基礎基本の学習内容の定着を図ることができた。</p> <p>※学習内容が「わかる・できる」と肯定的に回答する児童 80%</p>	B	<p>○教員の指導力のさらなる向上を図る。</p> <p>○新学習指導要領の全面实施を踏まえ評価方法に関する工夫改善を図る。</p> <p>○個別の教育的ニーズに対応できる学習機会や校内体制で支援できるようにする。</p>	<p>○校内授業研究会や他校での研究会・研修会を通して、授業実践力を向上させる。</p> <p>○めあてや見通しを持たせたり、振り返りを児童に意識させたり、授業展開を工夫する。また、個別・グループ・全体と形態を工夫し、練り合う時間や発表・表現するなどメリハリをつける。</p> <p>○支援体制のあり方や体制を整備する。</p>
<p>◆健康安全・体力向上</p> <p>○遊びや運動の楽しさと喜びを味わいながら、体力と運動能力の向上を図る。</p> <p>※「運動が好き、体力づくり頑張る」と肯定的に回答する児童80%以上</p>	<p>○中間・昼休み・放課後等、体育館やグラウンドで遊ぶ児童が増えている。</p> <p>○陸上や駅伝の練習に高学年を中心に積極的に取り組むことができた。</p> <p>※「運動が好き、体力づくり頑張る」と肯定的に回答する児童 85%</p>	B	<p>○朝の体力づくりの時間の効果的な活用と体育科の授業での運動量を確保できるよう授業を工夫する。</p> <p>○健康作りや体力向上に関して児童や家庭へ啓発する。</p>	<p>○朝の体力づくりの取組の継続と体幹づくりを意識した体育の授業を実施する。</p> <p>○保健・学校だより等を使った啓発や食育に関する授業等体づくりに関する授業を計画的に実施する。</p>
<p>◆地域連携・地域とともにある学校</p> <p>○コミュニティ・スクールとして、地域と協働で教育活動を展開し、地域を深く学ぶ学習の充実を図る。</p> <p>※「地域のよさを学ばせている、地域に親しみ・関心を持たせている」等で肯定的に回答する保護者・地域回答90%以上</p>	<p>○芦生グリーンワールド・ホームステイ・カラフル野菜など、地域と協働した取組を教育課程の中で実施することができた。</p> <p>○今後の取組について、関係団体や地域コーディネーターを交えて会議をすることができた。</p> <p>※「地域のよさを学ばせている、地域に親しみ・関心を持たせている」等で肯定的に回答する保護者・地域回答 90%</p>	A	<p>○新学習指導要領の全面实施を踏まえ、取組等についてのねらいや6年間・学年の年間計画の見直しと、地域と協働できる取組について検討する。</p> <p>○地域コーディネーターの積極的な活用や学校運営協議会や地域学校協働活動に対する保護者への啓発を行う。</p>	<p>○年度内に、地域コーディネーターと連携し、取組のねらい・年間計画を検討する。</p> <p>○学校運営協議会の運営等について中学校と密に連携する。</p> <p>○学校運営協議会や地域学校協働活動に対する保護者への情報発信や取組への参加の呼びかけや参加しやすい場の設定等の工夫をする。</p>
<p>◆働き方改革・学校の組織力向上</p> <p>○校務支援システムを効果的に活用し、校務処理の省力化・効率化・見える化を図り、業務改善をさらに推進する。</p> <p>※「業務の省力化・効率化・見える化が図れた」と実感する教職員が80%以上</p>	<p>○校務支援システムを活用して、通知表等を作成し、校務処理の省力化ができた。</p> <p>○教頭の声かけや助言により、在校時間を意識して勤務できる教職員が増えてきた。</p> <p>※「業務の省力化・効率化・見える化が図れた」と実感する教職員 60%</p>	C	<p>○これまでの慣行として行われてきたことでも必要性・妥当性がないものは、見直しをするなど、教職員の意識を変える。</p> <p>○授業準備・児童と関わる時間等が確保できるよう教育課程を工夫改善する。</p>	<p>○事前に資料を準備・配布するなど効率的に職員会議等ができるようにする。</p> <p>○校務分掌を活かし、校務・業務の役割分担を明確にする。特に、行事等の取組については、担当者が、教職員を協働的に・組織的に動かすことを意識して、提案をする。</p>

